

合格例

<試験官に関して>

外国人試験官：

50～60 代前半の小柄な品の良い初老の白人女性、スペイン人(?)。眼鏡をかけている。終始にこにこしていて、非常に心が休まった。わずかな面接時間中では、受験による精神的緊張のせいもあるが、スペイン人なのか又は中南米系の人なのかということまでは、そのスペイン語なまりから特定することは出来なかった。

通訳ガイド：

40～50 代前半の眼鏡をかけた恰幅の良い温厚そうな男性。最初に氏名、住所、試験会場までの所要時間等の質問をして、後は聞き役に終始した。

人物考査担当試験官：

50 代後半の男性、公務員風、表情に乏しい。スペイン語の分らない人とばかり思っていたが、途中の質問に反応して笑い出し、会話の内容を理解していたことが判明した。最後に日本語で 1 問質問した。

<面接試験の実際>

TG： お掛け下さい。先ず氏名を述べて下さい。

I： ○○○○・×××です。×××が名前、○○○○が名字です。

TG： どこに住んでいますか？

I： 千葉県松戸市です。

TG： ここまでの所要時間は大体どの位ですか？

I： 約 1 時間半です。

TG： (大きくうなづく)

NS： 私が旅行者(外国から来た)であると仮定して、いくつかの質問をします。先ず、私は日本のどこか海岸に行きたいと思うのですが、どこがお勧めでしょうか？

I： その旅の目的やコンセプトによりますが。

NS： 一般的な観光やマリーン・スポーツを楽しむためです。

I： やはり日本では、沖縄や九州の海岸が一番良いと思います。一般的に日本の海岸は、南の方が北よりも景勝地が多いようです。

NS： それは何故ですか？

I： 何故ならば、私は九州出身だからです。(先ず TG が笑い、NS もハー・ハー・ハーと最も快活に笑った。するとそれまで一言も発することなく、無表情に座っていた人物考査担当試験官 Governmental Official=GO が突然笑い出した。)

NS： しかしいずれも東京からは遠いので不便だし、費用と時間もかかりますね。東京の近くにはどこかないでしょうか？

I： 東京から近い所では、伊豆半島と伊豆諸島がありますね。但し、伊豆半島は近いし便利ですが、伊豆諸島は船で行くため時間がかかるという問題があります。

NS： なるほど(とうなづく)、それでは次に、最近の日本で若い人達が最も就職を希望する産業や分野は何ですか？

I： 最近の若い人達は、パートやアルバイト等の臨時的・非定職型の就業を好むような傾向があります。

- NS : それはどうしてですか？
- I : 若い人達は、仕事や職業による制約や拘束を嫌う傾向にあるようです。(さらに今日の日本では、特に定職に付かなくてもフリーターのような形で、何とか生活して行けるという経済的環境の変化と、終身雇用・年功序列型賃金制度の崩壊という社会的環境の変化を追加すれば良かったと思うが、その時は質問を切り抜けるだけで精一杯だった。)
- NS : どのような産業が多いですか？
- I : サービス業が多いようです。
- NS : 現在日本では、新規就職者の初任給はどの位ですか？(月当たりですかと確認すべきであったが、当然月給であると思って答えてしまった。)
- I : 大企業や公務員の場合では、大体 18~20 万円位だと思います。
- NS : 日本には仏像の大きなものがあるそうですが。
- I : 国内の各地にあります。一番有名なのは奈良と鎌倉にあります。それらは青銅製のものです。6 世紀に中国から仏教が伝来して以後、順次作られていったものです。
- NS : 鎌倉の大仏は、いつ頃作られたのですか？
- I : 正確には知りませんが、鎌倉時代かも知れません。
- NS : どちらの大仏が大きいのですか？
- I : 奈良の大仏の方です。
- NS : それでは、外国人観光客が日本式レストランに入った際に、何か不都合なことがありますか？例えば無作法だとか攻撃的(と確かに発音した)とか受け取られるような。(この質問は、全体的にその内容や質問者のねらいが今ひとつ理解できず、再度問い直して確認すべきであったと、今なお反省している。あいまいなまま、そして多分そういうことだろうとたかをくくったまま、見切り発車で回答に入ってしまった。)
- I : 以前は畳に正座しなければなりませんでした。現在では日本レストランといえどもその大部分はテーブルと椅子によるものであり、特に問題はありません。またたとえ畳の場合であっても、外国人に対しては、その座り方や作法等にとやかく注文を付けられることはないので、心配は要らないと思います。
- GO : (日本語で) それでは最後に、私の方から日本語で質問します。
あなたがこれから観光ガイドになった場合に、どういうことを心がけますか？
- I : (日本語で) 日本の社会や文化・地理・歴史等に付いて、なるべく簡潔に説明できるように心がけたいと思います。
- NS : それではどうもありがとうございました。
- I : ありがとうございました。

<反省点、今後の課題、後輩へのアドバイス等>

- ・ 私の場合、最初の通訳ガイドからの人定質問の後で、外国人試験官から 4 問、さらに最後に人物考査担当試験官から日本語で 1 問と、質問数が多かったが、これは個々の回答時間が短すぎたために時間調整の理由から質問数が多くなったのかも知れない。
- ・ 個々の反省点に付いては、各質問・回答の再現箇所に括弧書きで記入した。
- ・ 1 次試験の合格発表は 11 月 17 日(金)であったが、翌日から土・日をはさんだために、私が合格通知のハガキを受領したのは 20 日(月)夜の帰宅時であった。このため早速翌 21 日(火)に富士通訳ガイドアカデミーに連絡して 2 次面接試験対策直前セミナーの日程を聞いて申し込み、同日から 12 月 2 日(土)の最終日まで、日曜日を除き毎日受講した。
- ・ これはもちろん英語によるセミナーであったが、その内容はスペイン語で受験する私にとっても非常に参考になるものであった。想定質問の内容、会話力、声、姿勢、態度、回答時間、等々、わずか 7~8 分の面接試験対策であるにもかかわらず、質量共に豊富で綿密を極め、

当初の私の想像をはるかに超えるものであった。

- 一方スペイン語会話対策としては、同じく 21 日(火)から人選に着手し、さらに双方の日程と時間を調整して、11 月 30 日(木)から試験前日の 12 月 9 日(土)までの 10 日間、毎日 3 時間ずつ 2 人のスペイン人講師から個人レッスンを受けた。
- これによってスペイン語会話への「慣れ」を養うと共に、これまで無意識に使っていた「自己流」や特に中南米式の「癖」を修正してもらい、さらに富士通訳ガイドアカデミーに於ける英語の授業を参考にして、そこでの教材をスペイン語に置き換えて勉強した。
- 私の場合は、常に先ず英語で勉強し、次にそれをスペイン語に転換するというプロセスが必要であり、何かと手間ひまのかかる不運(?)な身の上を嘆かないでもなかったが、基本的には英語での受験者よりも多くの事を学べるという幸福感の方が常に大きかった。
- 最後に一私は、2004 年 11 月から週 2 回富士通訳ガイドアカデミーへの通学を開始したが、途中 2005 年 3 月から 2006 年 4 月まで南米アルゼンチンに赴任したためにその間休学し、本年 5 月より復学して今回受験した。未だ合否の結果は不明であるが、この間私の得たものは大きく、特に富士通訳ガイドアカデミーでの懇切丁寧な授業の影響は著しいものであり、地理・歴史・社会一般常識の外にスペイン語力のスキルアップ(もちろん英語も!)にも大きく寄与した。これまでのご指導に心から同アカデミーに対して、深甚なる謝意を表します。